

しまね学校図書館活用コンクール 取組の概要

学校名 奥出雲町立三沢小学校

1 応募部門 応募する部門に を付けてください。

() 読書活動部門

() 学校図書館を活用した授業部門

2 実践のねらい

「読むこと」の学習過程に、学んだことを生かす言語活動として図書資料を使った「調べる活動」を位置づけ実践することにより、児童が自分の課題を解決していく探求的な力の基礎を身につけると共に、適切な表現を選び思いや考えを伝えることができる力をつけることをねらいとする。

3 実践の概要

(1) 本校の研究と学校図書館との関わり

研究目標

自分の思いや考えを伝えるための「ことばの力」を身につけ、進んで伝え合う児童を育成するための指導のあり方を明らかにする。

学校図書館との関わりのある具体仮説

表したい気持ちや考えを表現する言葉や表現の仕方を学ぶための支援を学年の段階を追って進め、学んだことを生かす効果的な言語活動を設定すれば、より適切な表現を選び進んで自分の思いや考えを伝えようとする児童が育つであろう。

学校図書館との関わりのある研究内容

ア 説明文教材における指導内容の系統性を明らかにする。

(ア) 説明文における「読みの手だて」系統表を作成する。

『深める読み』の過程に教材文の学習を生かす《学んだことを生かす》場を設定する。

イ 教材文で学んだことを生かす効果的な言語活動を探る。【学校図書館の活用】

(イ) 学んだことを生かす言語活動の設定

《教材文で学ぶ》場の内容から《学んだことを生かす》場を取り上げる項目を設定する。

(イ) 情報を活用した学習の設定

- ・効果的な言語活動として図書で調べる活動を組み、重点単元を設定する。
- ・各学年の学校図書館活用指導内容を整備する。
- ・学年の活用指導内容に照らし重点単元での指導内容を設定する。
- ・学習で使用可能な図書を検索してリストを作成する。
- ・使用図書を準備する。(新規購入、公共図書館・他校学校図書館との連携)

(2) 授業実践

1年「のりもののことをしらべよう」～いろいろなふね～

- ・教材文の学習の後、のりものに関する図書を読み、友だちに知らせたい乗り物について役目と工夫をまとめ、「のりもの絵本」を作成して紹介した。

2年「どうぶつのひみつをしらべよう」～ビーバーの大工事～

- ・教材文の学習の後、ビーバーに関する図書を読み、友だちに知らせたいビーバーのひみつをみつけ、クイズにして紹介した。

3・4年「助け合って生きる生き物についてのクエスチョンブックをつくろう！」～ヤドカリとイソギンチャク～

- ・教材文の学習の後、助け合って生きる生き物に関する本を読み、問いと答えの構成からなる「ク

エスチョンブック」を作成して紹介した。

5・6年「『緑豊かな国土』の会議をしよう」～森林のおくりもの～

- ・教材文の学習の後、森林に関する図書やファイル資料を読み、自分の考えと根拠となる事実が分かるよう構成して意見文を書き、意見の交流を図った。

(3)情報活用力を高める他の取り組み

学校図書館開き

貸出返却の手順や図書の分類、配架を知らせ、様々な図書を自分で活用できるようにするため、全校一斉に図書館開きをし図書館担当が指導にあたった。

図鑑指導

児童が図鑑に親しむと共に、目次と索引の使い方を知ることにより今後の調べる活動に生かすことができるようにするため、全校一斉に図鑑指導の場を設定し、全職員で指導にあたった。

「言葉の広場」の活用

言葉の楽しさを感じさせる場として設けている掲示コーナーを活用し、「国語辞典の使い方」をクイズ形式で知らせ、辞典活用能力の定着を図った。

環境整備

図書の配架をNDC番号順に整備、「調べる活動」で活用する図書の優先的購入など、児童の情報活用力育成を支えるように学校図書館を整備。

3 実践の成果

(1)児童に関して

いろいろな学習や活動で図書活用機会が増加。

「どこにどんな本があるか分かって良い」「図鑑の使い方が分かって調べるのが楽しい」等、学び方指導の成果があり、図書で調べる児童が増加。

一つの「調べる活動」の経験が自分の考えと共に人の考えに関心を持つことにつながり、伝え合う態度の育成につながっている。

(2)職員に関して

「探求的学習」に関する職員研修、全職員での図鑑指導、全学級での「調べる活動」の実践を通して、学校図書館活用についての認識が高まった。

